

公衆審査におけるご意見と対応

対象標準：原子力発電所の出力運転状態を対象とした確率論的安全評価に関する実施基準
(レベル1 PSA 編) (案)

No. 1 (通し番号)
(氏名) 菅原 政治郎様
(ご意見) 5.3 起因事象発生頻度 コメント 上記 5.3 節で「起因事象発生頻度」と記載ありますが、「起因事象頻度」が正しい記載と思います。頻度は、ある事象が当該期間に何階発生したのかを示す単位であり、既に発生という概念を含んでいます。英語でも、” initiating Event Frequency” とあり、「起因事象頻度」とすべきです。これは、「炉心損傷頻度」の記載と同じであり、「炉心損傷発生頻度」といわないのと同じ事です。本記載は、5.3 節のみならず、本実施基準の全般に亘って見られるものです。
(対応) 御指摘は論理的に適切なものと理解いたします。しかしながら、我が国では、原子力安全研究協会の手順書及び停止時 P S A に関する日本原子力学会標準においても「起因事象発生頻度」の表記を「炉心損傷頻度」とともに用いているように、PAS 実施者の間では原案の表現が定着しているのが現状と考えます。このため、当面は原案のままとするのが適切と考えます。